

火災・救急・救助 統 計

令和7年度全国統一防火標語

『急ぐ日も
足止め火を止め
準備よし』

令和7年 年報
竹田市消防本部

火 災 編

令和7年の火災概要

本年の火災件数は26件であり、前年と比較すると4件増加している。火災種別ごとに前年と比較すると、建物火災は前年より2件減少し、車両火災が同数、林野火災は3件減少、その他火災が9件増加している。

出火原因別では本年もたき火を原因とするものが大半を占めており、特に田の枯草等を焼却中に火災に至ったものが多い。

損害額においては合計で25,361千円となっており、前年と比較すると5,597千円増となっている。また、火災による死者は発生しておらず、負傷者は3名発生している。

時間別発生状況では、13時から17時までが半数以上を占めている。

防火対策への取組みとして広報活動や竹田市住宅用火災警報器設置促進事業を行ったことにより、住宅火災に対する防火の意識づけとなり、死者は2年間発生していない。枯草焼き等による火災は依然として火災の割合の多くを占めている。

令和8年1月1日から火災予防条例の一部改正を行ない、火災と紛らわしい煙又は火炎を発するおそれのある行為に「たき火」が含まれ、たき火を行う場合はあらかじめ消防署へ届け出を行う必要あることを明確にするとともに、新たに気象状況に応じて林野火災注意報と林野火災警報を的確に発令し林野火災の未然防止を図ります。また、近年全国各地で発生している大規模火災の教訓を参考に、住民が安心して暮らせるまちづくりを目指していきたい。

1. 地域別火災件数及び死者負傷者数

()内は昨年同期

区 分		建 物	林 野	車 両	その他	計	死者数	負傷者
竹 田 市	竹田地域	3 (3)	3 (2)	0 (2)	7 (3)	13 (10)	0 (0)	2 (0)
	荻 地域	0 (0)	0 (1)	1 (0)	1 (0)	2 (1)	0 (0)	0 (0)
	久住地域	2 (4)	1 (4)	0 (0)	3 (1)	6 (9)	0 (0)	1 (0)
	直入地域	0 (0)	1 (1)	1 (0)	3 (1)	5 (2)	0 (0)	0 (0)
管 外	管 轄 外	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
合 計		5 (7)	5 (8)	2 (2)	14 (5)	26 (22)	0 (0)	3 (0)

2. 損害額

単位：千円

区 分	令和7年	令和6年	増 減
建物火災	22,152	12,432	9,720
林野火災	1183	481	702
車両火災	255	6,823	▲6,568
その他火災	1,771	28	1,743
合 計	25,361	19,764	5,597

3. 原因別発生状況

区分	たばこ	たき火	不明	その他	天災	自然発火	電気機器	花火	合計
件数		17	3	5	1				26

4. 月別火災発生状況

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
件数	5	6	3	3		1	1	2	1		2	2	26

5. 曜日別発生状況

区分	日	月	火	水	木	金	土	計
建物		2	1	1		1		5
林野	2				2		1	5
車両					1		1	2
その他	2	3	5	1		1	2	14
計	6	4	6	1	4	1	4	26

6. 時間別発生状況

区分	0:00 ~5:00	5:00 ~8:00	8:00 ~11:00	11:00 ~13:00	13:00 ~17:00	17:00 ~21:00	21:00 ~24:00	不明	計
建物			1		3	1			5
林野				1	3	1			5
車両			1		1				2
その他			3	3	8				14
計			5	4	15	2			26

救 急 編

令和7年の救急概要

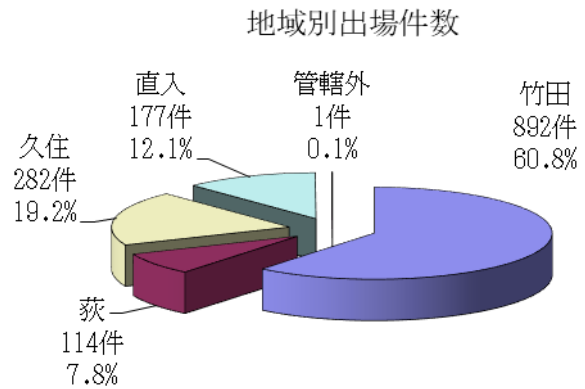
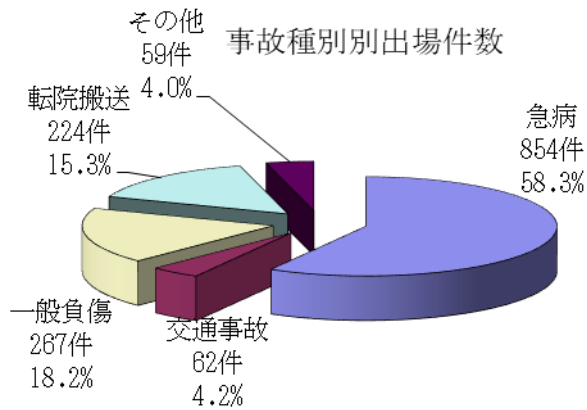
令和7年の出場件数は1,466件、1日の平均出場件数は4.0件である。出場件数は令和6年より31件減(2.1%減)、搬送人員数は11人減(0.8%減)となっている。出場件数事故種別は、急病が14件減、交通事故が29件減、一般負傷が21件減していることが出場件数の減少に関与している。

竹田市消防本部は、救急救命士有資格者28名のうち22名が実働救急救命士として救急業務にあたっている。救急出場では、2名以上の救急救命士が高規格救急車に乗務し救急搬送をおこなっている。現場活動に対しての事後検証会が毎月開催され、救急救命士の判断や処置に対して医師が検証することで、知識や技術の維持、資質の向上に努めている。また、検証結果をもとに市民が安心して暮らせるように日々訓練を重ねている。

1. 地域別出場件数

単位：件

区分	急病	交通事故	一般負傷	その他	令和7年	令和6年	前年比較	
竹田市	竹田	512	42	150	188	892	864	28
	荻	82	2	24	6	114	132	▲18
	久住	157	10	59	56	282	315	▲33
	直入	103	7	34	33	177	185	▲8
	計	854	61	267	283	1465	1,496	▲31
管轄外	0	1	0	0	1	1	0	
合計	854	62	267	283	1466	1,497	▲31	



※割合 (%) の合計は、四捨五入のため 100% にならない場合があります。

2. 出場状況

搬送件数は1,374件で、昨年より11件減少しており、不搬送件数は92件で昨年より20件減少(17.9%減)している。

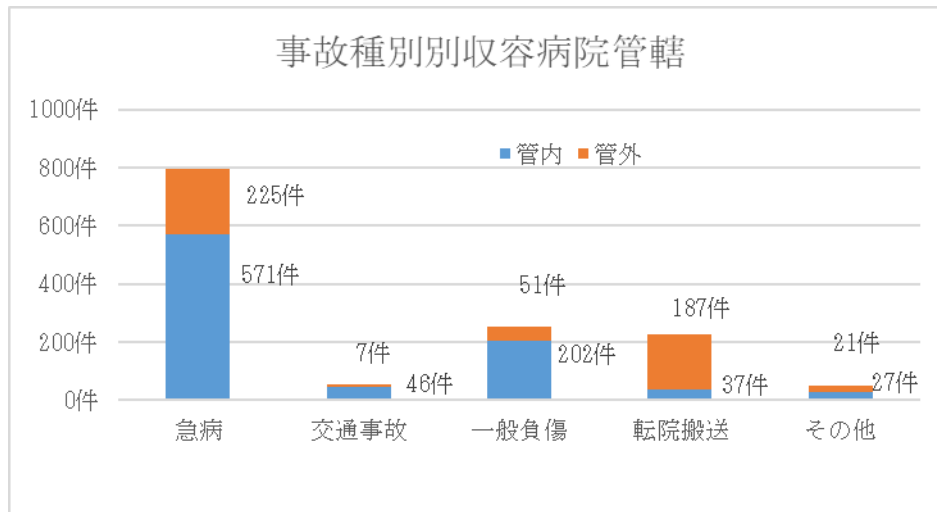
管内搬送件数は883件(64.3%)と昨年が913件(65.9%)であったことから30件減少(1.6%減)している。

	令和7年	令和6年	対前年比(率)	備考
出場件数	1,466件	1,497件	▲31件 (2.1%減)	1日平均 4.0件
搬送件数	1,374件	1,385件	▲11件 (0.8%減)	不搬送件数 92件
搬送人員	1,380人	1,391人	▲11人 (0.8%減)	▲20件(17.9%減)

3. 管轄外搬送件数

管外搬送件数は491件（35.7%）で昨年の472件（34.1%）より19件増加（1.6%増）している。管外への転院搬送件数が24件増加したことが関与している。

	管轄外搬送件数	前年対比
令和7年	491件（うち転院搬送187件）	19件（4.0%増）
令和6年	472件（うち転院搬送163件）	



4. 竹田市月別救急出場件数（過去5年間）

単位：件

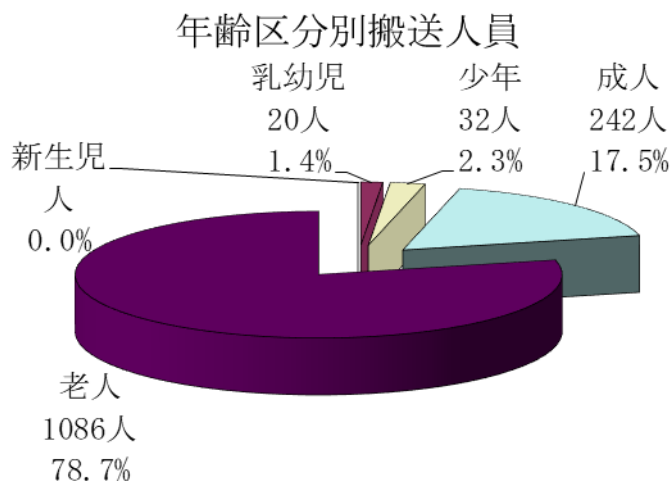
令和7年上半期の出場件数は762件であり、昨年同期より60件増加しているが、令和7年下半期の出場件数は704件であり、昨年同期より91件減少している。毎年6月から実施している熱中症予防啓発活動により7～8月の出場件数の減少となったことが要因と考える。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
令和7年	146	109	175	114	123	95	111	128	110	99	120	136	1,466
令和6年	139	117	112	99	127	108	159	161	105	116	118	136	1,497
令和5年	121	116	114	106	132	98	127	157	131	124	122	147	1,495
令和4年	105	100	114	109	132	109	129	161	123	121	119	134	1,456
令和3年	117	97	119	100	103	103	134	110	99	128	126	99	1,335

5. 年齢区分別搬送人員

年齢区分別搬送人員は老人の割合が78.7%であり、高齢化率の高さを表す数値となっている。

年齢区分	新生児	乳幼児	少年	成人	老人	計
搬送人員	0人	20人	32人	242人	1,086人	1,380人
率	0.0%	1.4%	2.3%	17.5%	78.7%	99.9%



※割合 (%) の合計は、四捨五入のため100%にならない場合があります。

6. 現場到着所要時間別出場件数

現場到着所要時間（覚知から現場到着まで）は、10.97分であり、昨年より0.96分短縮している。「おおいた消防指令センター」の本格運用が開始され、119番通報から出場指令までの時間短縮が大きく関与している。また、時間経過において、5分以上10分未満が40件増加、10分以上20分未満が81件減少していることが要因である。

	3分未満	3分以上 5分未満	5分以上 10分未満	10分以上 20分未満	20分以上	現場到着 平均所要時間
	令和7年	19件	114件	664件	514件	
令和6年	16件	107件	624件	595件	155件	11.93分 (11分55秒)

7. 救急救命士による救命処置実施状況

救急救命士の救急救命処置については、電気ショックは増減なし、気管挿管は14件減少、血糖測定は9件減少、静脈路確保は10件減少、薬剤投与は8件減少している。減少した要因は、心停止症例の減少である。

実働救急救命士22名を対象とした再教育病院実習を竹田医師会病院、大久保病院及び大分大学医学部附属病院で実施している。さらに竹田医師会病院、大久保病院では救急搬送時に院内で医師の指導のもと処置補助実習を行い、技術の向上に努めている。

	電気 ショック	気管 挿管	コンビ [®] チュ ーブ・LTによ る気道確保	血糖 測定	静脈路確保	薬剤投与
令和7年	2件	11件	1件	48件	36件 (心停止前 22件) (心停止後 14件)	15件 (アドレナリン 13件) (ブドウ糖 2件)
令和6年	2件	25件	0件	57件	46件 (心停止前 24件) (心停止後 22件)	23件 (アドレナリン 21件) (ブドウ糖 2件)

8. 心停止傷病者数及びバイスタンダーによる心肺蘇生実施状況

心停止傷病者は8名減少したが、バイスタンダーCPRの実施率は65.2%であり、昨年より0.7%増加している。

令和6年7月30日から竹田市からの119番通報は「おおいた消防指令センター」で受付されており、新たに映像通報システムが導入された。このシステムは、通報者がスマートフォンで撮影した映像を「おおいた消防指令センター」に送信することで、応急手当が必要な方に対してより効果的な応急手当の指導が行えるものである。救急講習などで実際に映像通報システムを体験してもらい、救命率の向上に努めていきたい。

	令和7年	令和6年	前年対比
心停止傷病者	23名	31名	▲8名(25.8%減)
バイスタンダーCPR有	15件	20件	▲5件(25.0%減)
心停止傷病者に対する、 バイスタンダーCPR実施比率	65.2%	64.5%	0.7%増

9. 救急講習受講状況

第3期竹田市総合計画に掲げているバイスタンダーによる応急手当の普及啓発を促し、救命率向上のため各種救急講習を実施している。

普通救命講習は、15団体から7団体に減少したことで受講者が70人減少した。救命入門コースは、8団体から2団体へ減少したことで受講者が237人減少した。一般講習は、受講者が昨年より514人多くなっている。全体の受講者は、昨年より207人増加した。

	受講団体数	新規講習	再講習	総数
普通救命講習	7団体	126人	8人	134人
救命入門コース	2団体			55人
一般講習	60団体			1,694人

救 助 編

令和 7 年の救助概要

令和 7 年の救助出場は 43 件で、昨年より 16 件減少している。

事故種別では、交通事故 14 件（昨年 21 件）、水難事故 1 件（昨年 0 件）、機械事故 2 件（昨年 1 件）、その他の事故 26 件（昨年 37 件）内、山岳事故 18 件（昨年 24 件）であり、交通事故が 7 件の減少、山岳事故は 6 件の減少となっている。

以上のとおり、全体としての救助出場件数は減少傾向にあり、各種安全対策や啓発活動の一定の効果が表れているものと考えられる。一方で、依然として交通事故、山岳事故が多くを占めていることから引き続き関係機関と連携を図り、事故防止に向けた取り組みの強化が必要である。

1. 令和 7 年の救助出場件数 43 件

2. 月別出場件数

月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	計
件数	3	5	5	3	5	1	4	3	2	4	7	1	43

3. 地域別事故種別発生状況（累計）

（ ）内は昨年同期

事故種別 地域	火災		交通事故	水難事故	自然災害	機械事故	建物事故	ガス酸欠	破裂事故	その他事故			計
	建物	以外								山岳	不明	他	
竹田			11 (12)			2				1 (4)	1 (1)	5 (7)	20 (24)
萩			1 (1)									1 (2)	2 (3)
久住			1 (4)							17 (20)	1 (2)	(1)	19 (27)
直入			1 (3)	1		(1)							2 (4)
計			14 (20)	1		2 (1)				18 (24)	2 (3)	6 (10)	43 (58)
管轄外			(1)										(1)
合計			14 (21)	1		2 (1)				18 (24)	2 (3)	6 (10)	43 (59)

4. 救助概況（前年比較）

件数		事故種別	火災	交通 事故	水難 事故	自然 災害	機械 事故	建物 事故	ガス 酸欠 事故	破裂 事故	その 他事 故	計
出動件数	令和6年			21			1				37	59
	令和7年			14	1		2				26	43
	増減			▲7	1		1				▲11	▲16
活動件数	令和6年			10			1				35	46
	令和7年			6	1						23	30
	増減			▲4	1		▲1				▲12	▲16
救助人員	令和6年			15			2				35	52
	令和7年			7	1						24	32
	増減			▲8	1		▲2				▲11	▲20